インド

39 インドラバチ上流灌漑事業

A
B
C
D

収量が不安定で、生産性の低いオリッサ州の天水田地域において、灌漑施設を建設することにより、農業生産の増大および生産性の向上を図り、もって同州の食糧自給率を高めるとともに、社会的差別と極貧に苦しむ指定カースト※・指定部族（少数部族民）の所得向上を通じて貧困削減に寄与する。

※バラモン（僧侶）等階級化されたカースト以外に位置付けられた人々。

承諾額/実行額 37億4,400万円／35億9,900万円
借款契約調印 1988年12月
借款契約条件 金利2.5%、返済30年（うち据置10年）、部分アンタイド
貸付完了 1999年1月

外部評価者 南村亜矢子（アイ・シー・ネット㈱）
現地調査 2003年7月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに左岸幹線水路などの土木工事、資機材調達等が行われた。期間は、水路建設用の用地取得等に時間を要し、計画を大幅に上回ったが、事業費はインフレを上回る現地通貨の減価等により計画を下回った。灌漑施設の整備により、作付面積は事業実施前の2万7,966haから2001年度には7万5,805ha（旭川市の面積約748km^2）と約2.7倍となった。これによって、同年度の米の生産高は37万4,800トン（新潟県では約60万トン）と、計画の約1.8倍に達したほか、作物の多様化も進んだ。また、01年度の受益農家数は約4万4,000戸に達している。灌漑設備の整備による農業生産高の増加は、農家の所得向上にも貢献しており、00年度の農家平均所得は年間3万1,000ルピーと、計画比の56.5%増であった。また、州内の米の自給率は100%に達し、土地を持たない人にも、灌漑の開始によって農業労働者としての雇用機会が増加した。実施機関であるオリッサ州水資源局では、当行による調査の提言をもとに、水利組合の強化を進めている段階である。実施機関、水利組合ともに技術、体制、財務面については問題はない。本事業の教訓としては、受益者による事業の運営・管理を促進するため、社会・経済状況を調査し、具体的な問題を明らかにしたうえで、関係者の役割を明確にしたアクションプランを早期に作成すべきであることが挙げられる。また、水利組合へ管理に関する権限の移譲を早期に進めることが望まれる。

第三者意見

本事業は、オリッサ州の最貧困層の生活水準向上と食糧自給を目的としたもので、所得向上により子供の就学が可能になるなどのインパクトが認められる。

有識者 Ms. Usha P. Raghupathi
環境計画/技術センター大学院卒業（環境計画）。現在都市問題国立研究所教授。専門は都市開発（上下水道、貧困、環境など）。

本事業より建設された灌漑施設

インドラバチ灌漑水路

灌漑施設の設置により、作付面積が大幅に増加し、オリッサ州内における米の自給率は100%を達成した。

インドラバチ灌漑放水口

灌漑とは？
作物を栽培するにあたって必要な水を供給し、農業生産力を高めるために、水を耕地に組織的に導き、地域的に配分することをいう。灌漑開発が農業生産力の発展に果たす役割は非常に大きい。

水利組合とは？
灌漑用水を利用している農民により組織され、灌漑施設の維持管理と配水スケジュール作成・実施を行う組合組織。